

# 滋賀県 権現山～ホッケ山～蓬萊山 登山における UFO レポート

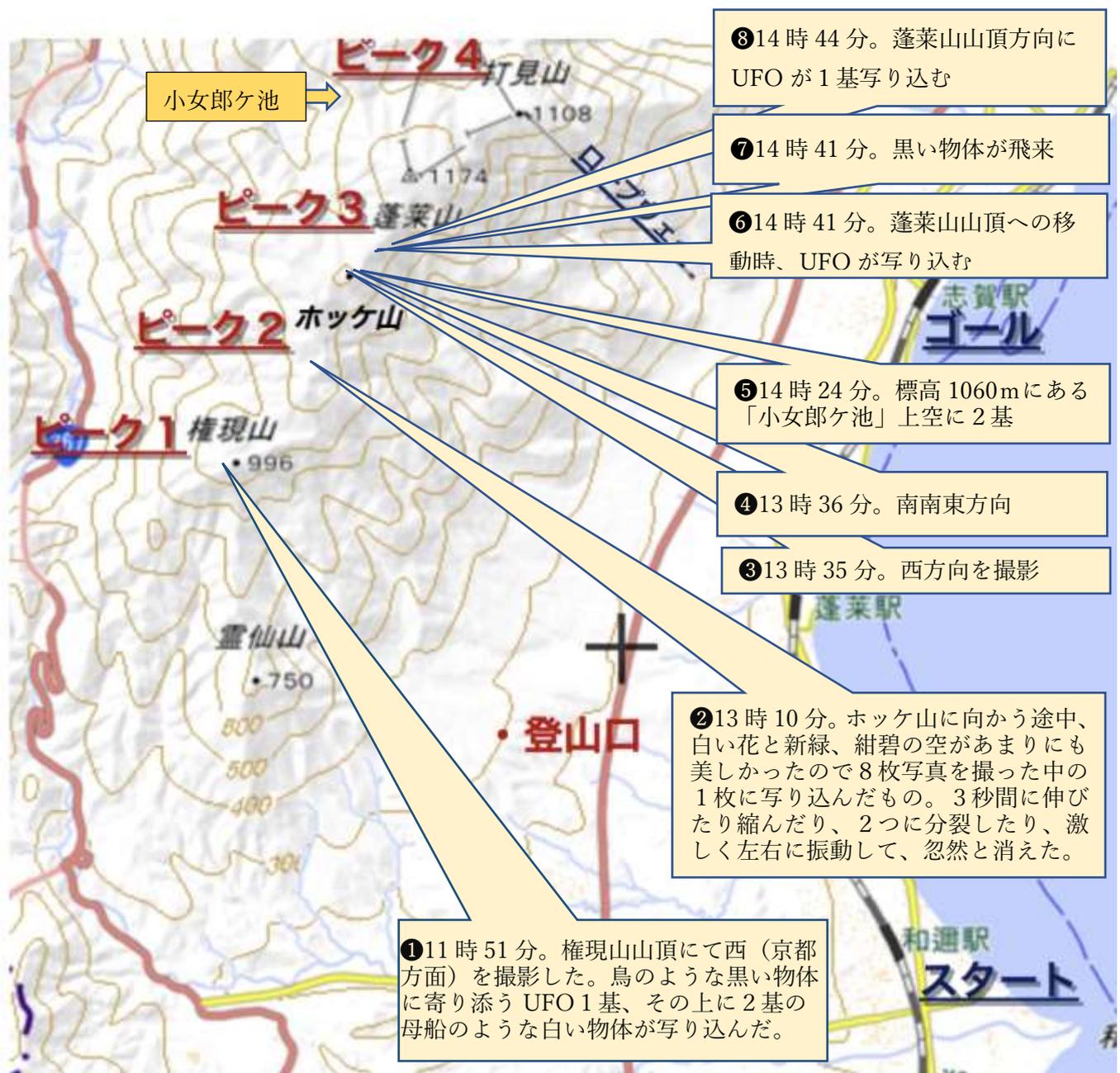
2020年10月7日 竹内 香 作成

2018年4月28日(土)、私とはあるセミナーで知り合った登山家と知人の3人で、滋賀県の比良山系で武奈ヶ岳に次いで2番目の標高を誇る「蓬萊山」(標高1174m)山頂を目指して、JR 和邇駅からタクシーで5分程行った先にある登山口から9時前に登山を開始した。

私も知人も登山の経験は全くなく、登山家である M 氏が初心者向きのコースを選んで案内をしてくれた。権現山(標高996m)の山頂までは登山道で目にするイワカガミヤスミレ、マムシグサなどの植物を撮影することに心を奪われていたが、権現山からホッケ山(標高1050m)、蓬萊山に向かって稜線を歩く頃には澄み切った紺青の空の美しさに感動して何度も iPhone で写真を撮った。

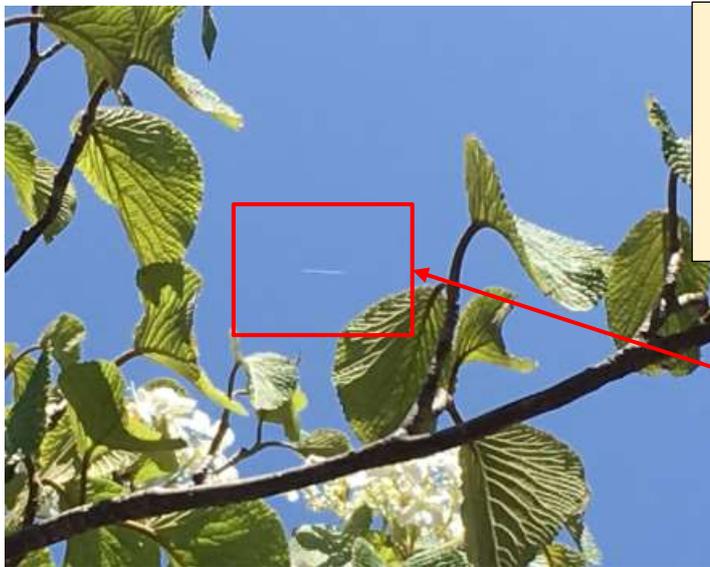
帰宅後、③と④の写真に UFO らしきものが写っているのに気がついた。登山の最中は一度も UFO らしきものは目撃していない。寄り添うように写る黒い鳥のようなものの存在も大変気になったが、案内してくれた登山家や知人の何人かに写真を見せても、皆、首をかしげるばかりだった。

iPhone には Live Photos という機能があり、設定すれば撮影した瞬間の前後1.5秒ずつ計3秒が動画として保存される。2年半後、偶々この機能を使って動画を手動で再生すると、それまで気づかなかった UFO や黒い物体が多数写っていることがわかり、驚愕した。このレポートはその報告である。



①11時51分。権現山山頂にて西（京都方面）の空を撮影した。鳥のような黒い物体に寄り添うかのような UFO 1基と、2基の母船のような白い物体が写り込んでいる。他にも羽根つきの羽のような物体や小さい UFO も写っている。母船のようなものは直前に撮った写真にも写っており、僅かながら動いているのが確認できた。





②13時10分。ホッケ山に向かう途中、白い花と新緑、紺碧の空があまりにも美しかったので8枚写真を撮った中の1枚に写り込んだもの。3秒間に左右に伸びたり縮んだり、2つに分裂したり、激しく振動し、忽然と消えた。



③13時35分。ホッケ山山頂より西方向を撮影。この写真は元の写真の右5分の3だが、全体では他にも非常に小さい円盤状ものが1基、黒の小さい生き物が4つ写っていた。右の黒い生き物はかなりのスピードで左斜め下方方向に滑空していた。UFOは反対に右上空に移動した。



④13時36分。同じくホッケ山山頂より南南東を写す。左端中央は琵琶湖大橋。右下は霊仙山。③の写真に写っているような黒い生き物とUFOが写っている。すれ違った後、黒い物体は右方向に、UFOは左方向に飛んでいた。



⑤14時24分。標高1060mにある「小女郎ヶ池」の上空（北）に2基のUFO。池の畔で20枚撮影したが、UFOが写っていたのはこの1枚のみであった。この写真は右を少しカットしているが、上のUFOは右（東）から左（西）へ約1秒で移動した。

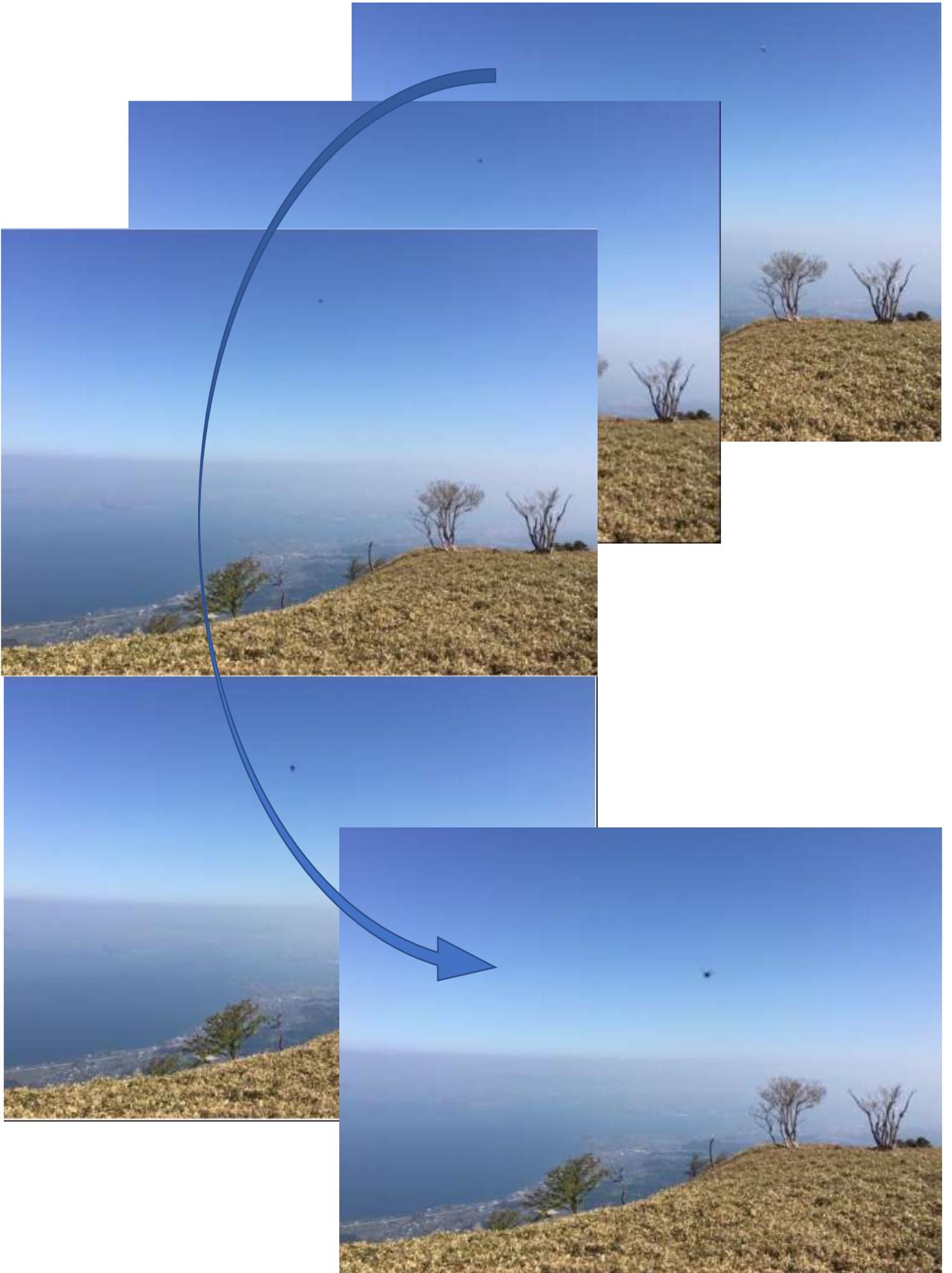


⑥14時41分。蓬萊山山頂への移動時、東北東の琵琶湖とその上空を撮影。写真を見るだけでは全く気づかなかったが、動画を手動で再生して見ると、写真の上端に UFO が突然姿を現し、次の瞬間、黒い鳥のようなものに変身（擬態？）しているのが確認できた。（注：写真は2コマを重ねている。） UFO も黒い鳥のようなものも瞬間的に表れ、消えた為、動きは確認できていない。



⑦14時41分。上の写真を撮影した直後、東南東を撮影する。⑥の写真同様、写真だけでは何も写り込んでいないように見えたが、動画をゆっくり再生すると、右上から UFO のような物体が飛来して右下方向に弧を描くように約0.3秒で通り抜けていったことがわかる。これらを1枚にまとめると次のページのようになる。



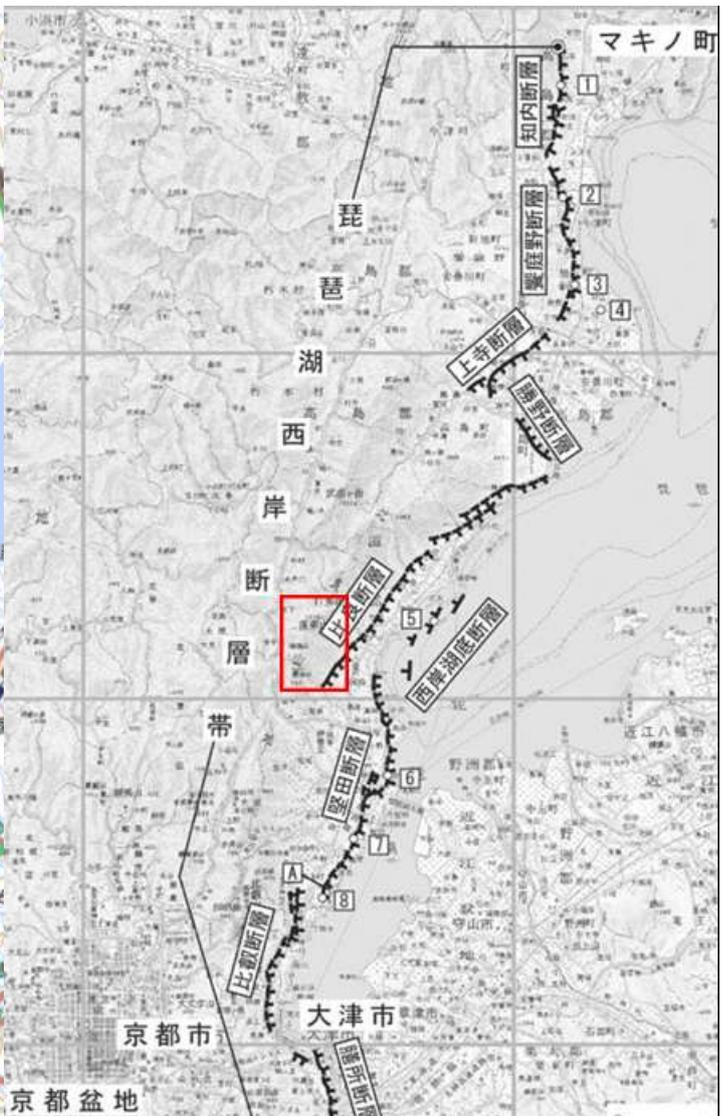


⑦の5コマを時系列に沿って同一平面上に並べてみた。



⑧14時44分。蓬莱山山頂に向けて撮った写真を動画 Live Photos で見ると、左の登山家 M 氏の右足の踵が僅かに上がった瞬間、UFO が1基、忽然と現れ、消えた。





日本GAPにも関わりのあった(と本人が語っている)秋山真人氏は、UFOがよく見られる場所は「富士山、湖、活断層の上」だとYouTubeで語っている。今回の登山コースも琵琶湖西岸断層帯の中の比良断層とほぼ重なりあっている。そして、日本一を誇る湖の畔でもある。

蓬萊山の山頂は「びわ湖バレイ」のレジャースポットが広がり、観光地としても人気が高いが、今回の登山コースの蓬萊山の南側は殆ど他の登山者を見かけることもなく、良いコースであった。夜間に登山をすれば、肉眼でUFOを観測できるかもしれないと期待が膨らむ。

iPhoneのLive Photosはおせっかいな機能だと日頃はうっとうしく思っていたが、今回ばかりはこの機能があることで沢山の発見をすることができた。写真に沢山写り込んだ黒い物体の正体は依然として不明ではあるが、比良山系や琵琶湖の上空を飛び交っている様を実際に目にするのでいいのか、興味は尽きない。

蓬萊山の山頂には登山の無事を祈る「彼岸の鐘」という石塔がある。ここで撮影したM氏に太陽光線が当たり、宇宙人の顔のようなものが写り込んだ。秋山氏のいうグレイタイプの宇宙人「ペル」が最後に茶目っ気たっぷりに正体を現したように私には思える。

写真を見るたびに新たな発見があり、私の妄想は膨らむばかりである。

